

第20回（令和元年6月27日） 地域包括ケア推進協議会における主な意見

項目	内容
福井市地域密着型サービス事業者の選定結果について（第7期公募2回目）	<p>グループホームは在宅サービスであるが、入居型であるため地域密着型の圏域について、もう少し緩やかに考えてもいいと思える。</p> <p>地域密着型サービスが10年以上続いているが、<u>地域密着型の意味を、福井市のことだけでなく全国的に振り返ってみる時期に来ているのではないか。</u></p>
平成30年度「高齢者の住まいの確保に関する勉強会」について	<p>空き屋を活用したサ高住について、高齢者は必ず衰えていくので、今できる状態であてはめてみたが、<u>3、4年後はどうなっているのか、それに対してどうするのか、何年もつのか</u>が心配で、地域住民には、高齢者の他に若い人も住んでいる中で、そこに当てはめてみても本当にフィットするのか懸念される。</p> <p>他の入居者の理解やオーナーさんが受け入れてくれるのか、十分な生活支援やアフターフォローができる空室がどのくらいあるのか、<u>いざ実践すると出てくるであろう現実的な課題や不動産業者、管理会社の考え方など追跡して調査する必要がある。</u></p> <p>この方策は途上であるが、次の介護保険事業計画でも一部とりあげていきたいらしい。</p>
年間スケジュールについて（免許返納について）	<p>現在の高齢者人口の増えた事故率は、分母に当たる高齢者の免許取得者が増えれば分子も増えるはずで、<u>以前の事故率と比べて、もし一緒であれば昔と一緒にあり、違うのであれば、やはり高齢者の免許返納が必要ということになる。</u></p> <p>（別紙参照）</p> <p><u>大事なことは、本人や当事者がどういうふう考えているのか、今、こんなことをしたいという気持ちが奪われることが困ること。週1回バスが来ることもあるが、ずっと待っているのか、今、孫を迎えに行きたいという気持ちにどう答えるのか、安心してほけることができる社会となるようどういう風にしていけばいいのか分からないが、本人のニーズがどこにあるのかしっかり聞いて、我々ができることとできないことを考えて、家族やご近所さん含めて地域として取り組む必要がある。</u></p> <p><u>客観的なデータをしっかり押さえることが重要で、市の庁内で連携して、交通の確保、社会環境の整備をバックアップしてほしい。</u></p> <p>介護保険事業計画には直接反映されることはないかもしれないが、おおいに関係することなので、またこのテーマを当分科会で議論したい。</p>
すまいるオアシスプラン2018の取組結果等について	<p>口腔機能向上サービス事業を始めて今年で3年となるが、<u>圏域ごとに受診率のデータが分かれば、どこの圏域が少ないのかが分かり、職域ごとに代表を出している所以对処できることもあり、介護予防事業として予防できているのか、実際に介護にかかる金額が減っているのか結びつけていきたいので、団体ごとに客観的なデータがほしい。</u></p> <p>（回答） 協議を行いながらデータの提供はできる。</p> <p>（別紙参照）</p> <p>自治会型デイホームは専任職員に任せっきりで手伝う人も少なく、ある地域では民生委員が強制的に呼ばれて苦痛に感じ、民生委員のなり手が少ない原因となっている。</p> <p>春山地区では参加者を増やそうと、公民館での食事会に春山小学校の子</p>

どもとの交流や、福祉まつりでは、小学校の体育館でゲームや売店を設けるとたくさん人が集まっており、なにか楽しみを持たせてワンパターンにならないようにしないと、なかなか人は集まってこない。

コミュニティーバスのダイヤに合わせたデイホームの開催や、年齢層を下げるために夜開催できないかという意見があり、検討中。

毎回同じところで同じゲームをするというのでは難しく、和田地区においては、年に2回くらい、ぶどう狩りやいちご狩りなど会費を取ってバスで行くと経費もかかるが、今まで来ていないような人も来るようになり、リピーターを作っていこうと進めている。

子供食堂と一緒にやっているところもあり、「子供」というのがキーワードで、お母さんやお父さんたちにも高齢者のことにも連動して関心を持ってもらえるかもしれない。

よろず茶屋と子供食堂を兼ね、コンビニ経営者から賞味期限に近づいた食べ物をもらって、100円や子供はただで食べられる。そこに高校生が来て小学生の勉強をみるというよろず茶屋が市内に1つあり、全国的にもたくさんある。お年寄りには15分以上かかると行かないので、歩いて10分以内の距離にあちこちに作ってもらって、菊池先生が研究している空き家がそのように使われるとよい。

すまいるオアシスプランも「PDCAサイクル」がキーワードで、成果指標は、今は動かすことはできないが、これを使いながら他にないか、次回の介護保険事業計画では何か付け加えるとか修正していくことが大事。

認知症サポーターの数はポピュラーになっていて、数値を重視するが、数値で計れないところ、認知症サポーターがその後、地域でどのような活動をしているのかが大事で、フォローをしていく必要がある。

<p>地域包括支援センターの活動状況、事業評価、活動計画について</p>	<p>これだけのものを作るのに時間と何人の手がいったのか、もう少し字を大きくして、項目を少なくしてもらわないと、聞いても分かったかという、力尽きて半分も読めておらず、そういったところの改善はいかなものか。</p> <p>(回答) 来年度の報告時には、元資料とは別に、概要版をまとめ説明するよう改善する。</p> <p>13包括になってから3年経ち、居宅さんからの評価や平均値も去年・今年と上がっており、私たち(包括職員)が一生懸命やっている分、正当な評価を受けていると思う。</p> <p>実際、私たち(包括職員)のやっていることがどれだけ地域を変えられているのか、確実に繋がっているものはあると思うが、そのあたりの<u>手ごたえを、肌で感じ取ることがなかなか難しく、また感じ取ったものをどのように数字に表せるのか分からないこともあり、皆さんの理解をいただけないところがある。</u></p> <p>十数年前に地域包括支援センターができ、民生委員が容易に出張や旅行に行くことができるようになり、出かけているときでも必ず対応してもらえるので助かっている。ただ時々、夜中に電話すると繋がらない時があるので、<u>24時間絶対繋がるようにしてほしい。</u></p> <p>(回答) 地域包括支援センターの運営方針や要綱に謳っており、対応体制がしっかり行われていると認識していた。センター長会議でも、当番制をとるなかで、当番の方は旅行を控えたり、予定が入っている場合は交代したりと調整していることを聞いている。また、<u>そのような案件があった場合、情報提供いただきたく、注意喚起をしたい。</u></p> <p>困難ケースがどんどん増えてきていて、他の自治体では、本当に困難なケースなのか、ケアマネさんや職員が困難にしまっているのか、その紐解きのフォローをしている自治体もあるので、そのあたりのことを検討してほしい。</p>
<p>その他</p>	<p>地域包括ケアの概念とは変わるが、利便性の高い地域に、認知機能が低下した高齢者を集めて、そこで、医療・福祉・介護のサービスを集中的に行うということが、免許返納や防災、認知症の経過をみていくことに対して有益なことだと思う。<u>住み慣れた地域という概念はやめて、最後は利便性の高い地域で行っていくという活動につなげてほしい。</u></p> <p>自治会型デイホームについて、<u>元気な時にやっていたことや、年を取っても続けていきたい楽しみが自立支援の一番のポイントで、「何かあるからおいでください」と誘われても、なかなか男性の方は行きにくく、昔とった何とかで、役割を作り出したり、どういうことが楽しみになるのか伝わるような、自治会型デイホームや介護保険や総合事業のデイサービスになると良い。</u></p> <p>高齢者の運転や免許返納について、<u>福井病院や公立丹南病院では、シミュレーター等の機械を利用して、運動機能のチェックや認知面を評価できるように、気軽に相談できるような窓口があるといい。</u>理学療法士や作業療法士は、運動機能、認知機能面の把握と日常生活のニーズを結びつけられる職業的な特性があり、ぜひ、関わるといい。</p>